

太宰府の文化財

vol. 496



写真1 特別史跡大宰府跡客館跡出土滑石製品



写真2 平城京左京二条五坊北郊出土滑石製品(※)

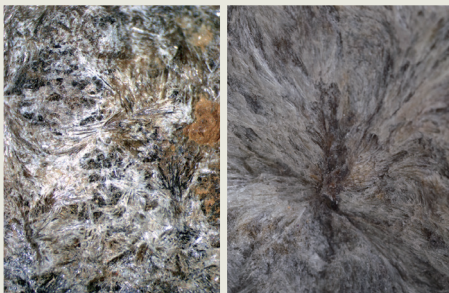


写真3 放射状に伸びる岩相(※)
(左:客館跡出土 右:平城京出土)

温石とは、患部を温めて治療する温竈法に用いる治療器具や、暖をとる懷炉にも使用する道具を示す名称の一つで、「焼石」「懷温石」とも呼ばれています。写真1は、客館跡(特別史跡大宰府跡)の調査で出土した石製品です。当時は「磨石」として報告しましたが、近年の研究成果により「温石」である可能性が指摘されました。契機となったのが、令和5年度に行われた奈良県所在平城京左京二条五坊北郊

の調査です。その時出土した楕円形の滑石製品(写真2)と写真1には、断面の結晶構造(以下、岩相)やサイズ感などの共通点があります。平城京出土品を調査する過程で、大宰府出土品も温石である可能性が浮上しました。

代の温石に関して、天台宗を開いた最澄に師事した義真の著書『天台法華宗義集』にて、四肢が形成される前の胎児が温石のようだと譬えががあります。これは角ばった方形の温石ではなく、丸みを帯びた温石の存在を示す記録だと考えられます。

の共通点が複数確認されています。加えて、平城京出土品の分析で、共通点の一つである岩相(写真3)が、韓国忠清北道堤川市水山面(サシマツ)で産出するアスベストが針状結晶化した「トレモライト」だと判明しました。その結果、国内にはない朝鮮半島で採掘された石を原材料として製作したと想定されました。

以上の大きさ、形状、岩相、加えて平城京と大宰府の地理的環境から、この資料は奈良時代に朝鮮半島の統一新羅から搬入された温石だと推定されました。特に客館は、外国使節に対して外交や饗宴などを行う施設であり、新羅製と推定される佐波理の食器類などが出土しています。この温石は、新羅との国家レベルの交流によってもたらされた品物であった可能性が考えられるでしょう。

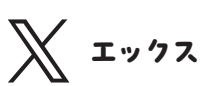
(※奈良市教育委員会所蔵)

文化財課 福盛雅久

今回取り上げた滑石製品などの客館跡出土品は、文化ふれあい館で開催中の『まるごと太宰府歴史展2026』(8月8日(土)~11月3日(火・祝))にて展示中です。ぜひ実物を見にお越しください!

新発見! 8世紀の大陸の温石 客館跡(特別史跡大宰府跡) 出土滑石製品

太宰府市公式SNSのフォローをお願いします!



太宰府市公式
ホームページ



編集: 太宰府市総務部経営企画課 〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121/FAX(921)1601 ✉keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



気になる記事はホームページのページID検索から探すことができます。